



台湾と日本の環境ビジネス

『環境首都水俣』に学ぶ水高生から世界への「いのち」の発信



水俣高校 2年

3名

1. 仮説

台湾と日本のプラスチック問題に対する政策（ビジネス）は共通部分があるのではないかな。

2. 問題点

台湾

- 海洋プラスチックごみの増加
- 使い捨てストローの増加

日本

- 海洋プラスチックごみにより、生き物が死ぬ
- 埋め立てによる土壌汚染
- プラスチックごみの焼却による大気汚染

プラスチックに汚染された海



3. 解決策

□…共通点, △…相違点

- スーパーやコンビニなどでレジ袋の無料提供禁止
- △使い捨てプラスチック製品を2030年までに全面禁止
- 買い物袋を紙袋に変える
例) GU、ユニクロなど
- △細菌利用
 - ・プラスチック処理工場で見つかった(2016年)
 - ・プラスチックを養分にして生きる



4. 改善点

- 海洋ごみによる解決策が足りない
- ゴミ箱の間隔を狭くする
- プラスチックごみへの関心が少ない
- SGHのような活動でみんなの関心を高める

〈参考文献〉

- ・イデオネラサカイエンシスとは何？
- ・台湾はレジ袋禁止へ、プラスチックごみ削減に進む各国の動き
- ・世界基準からずれた日本の『リサイクル率 84%』の実態

5. 考察

- ・日本で行われていない台湾の政策を日本でも行えば、より良い環境を作れる
- ・プラスチックの代替品の開発が求められる
- ・プラスチックごみは様々な環境問題に関連している